

中央アルプス

2000年7月8日～9日

越百川

松原憲彦(北大山の会)

7月8日(曇り後晴れ) 大型台風3号は関東方面へ逸れてった。大桑町に着き、伊奈川のどれにしようかな、で、越百川へ。発電所のゲートより歩き出し、本流との二股を確認。水は清冽そのもので、花崗岩の岩は白く、そしてデカイ。ここでも堰堤工事中。この上の巨大堰堤の左を巻けば、ドーンと河原になる。一服後、歩き出せば程なく両岸立ってきて、何とも良いムード。腰を振る立派な8mスウィング滝は、左手に巻き道が有るもやや微妙。左岸を巻くと懸垂となるでしょう。ここいらは道南の遊楽部山塊を大きくした感じ。ゴルジュに挟まれたクロス倒木の先で初泳ぎすれば、釜持ちの二条3mのチョックストーン滝が行く手を阻む。登るのも荷揚げも面倒臭そうなので左岸を巻きにかかるもこれまた微妙で、ザイルを出すべきだった。今シーズン初の15mの懸垂下降で沢身に戻る。右より5万図「百」の字の所の支沢が10m滝となって合わさるが、ここいらは概ねゴルジュの中。ドッシリした登れない7m滝は左岸の棚を楽に巻く。花崗岩を穿った奇妙な形状の2条2m、3mスライダーシュート滝を楽に巻き、下部ゴルジュもそろそろ終わりだろうと歩を進めれば、ちょっとしたトロに岩が乗っかっている。泳ぎ着いた先には更に最狭部1mの細長いトロと、思わずニヤけるムーディーな3mすべり台滝が待ち受けており、歓声の雄叫びをあげて泳いで取り付き、突っ張りで突破する。これにて「鍋ツルシの廊下」は終了の様子で、両岸は開ける。右手にザレを見ると取水堰堤の登場で水量は大いに復活する。自然の中に突如として現れる人工物にはいつもながらギョッとさせられる。取水される以前の下部廊下は、正に手の付けられぬ大廊下だったことだろう。ここからはさしたる見せ場もないが、実に豊かで美しい空間と時間が展開する。下南沢出合いには木曽檜の流木溜まりが有り、労無く贅沢な焚火ができる。半月が昇る。

7月9日(晴れ) 発つとじきにゴルジュと相成る。瀑流帯をへつって、岩が挟まった迫力の2条4m滝の、脇の垂直壁を空身でグイッと登ってザックは吊り上げる。出合いに滝印のある水線の沢を合わせた先に、釜を沸騰させる6m斜滝が有るが、ここいらは巻くのに厳しい地形ではない。朝の光射す2段8mゴーロ滝でこのゴルジュも終了し、一気に開けて中南沢まで能天気な河原が続く。中南沢を右に分けた先にちょっとした滝場があるも他愛なく、もうなんでもない。後は果てしなく続く傾斜のあるゴーロ沢を延々と歩く。延々と。越百小屋への沢を分けた先のチョックストーン5m滝で冷や汗をかかされ、意地の悪い白いザレを越すと道に出た。5分で越百山の頂上に到着し、中央・南アルプスの展望を初めて得る。犬連れの兄さんに山の名前を教わり、さようならして越百山新道をよろよろと下る。折よく、ゲートにて気の良いおっちゃんが軽トラの荷台に乗ってくれ、入渓地まで送ってくれた。多謝。(松原憲彦)

タイム 7月8日 相の沢発電所発10:10ー下南沢出合B P14:25/9日 出発5:45ー中南沢出合7:45ー奥南沢出合8:45ー越百山14:00～14:50ー登山口17:00ーゲート17:30ー相の沢発電所着18:30

地図 空木岳 安平路山 南木曽岳 木曽須原

グレード 3級